

# で〜れ〜BOOKS 2017

で〜れ〜BOOKSとは、岡山の高校図書館による **高校生向けのおすすめ本** コンテストです。  
 図書館には**多様なジャンルの本**があることを知ってもらいたい！という願いから、小説以外の本を選考対象としています。  
 岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会が主催して毎年実施しており、**今回が第3回目**となります。

## 大賞 宇宙を撮りたい、風船で。 世界一小さい 岩谷 圭介 / キノブックス 僕の宇宙開発

著者からメッセージをいただきました！



一緒に未来を担う皆さまへ

やりたいこと、好きなこと、をやってみよう、続けよう。しくじることある、ダメになることもある。そんなときは考えて、またやってみよう。諦めずに向き合っていれば、一歩、一歩進んでいける。そして、少しずつ力になっていく。ふと気が付くと、始めたときより、ずっと近づいている。最初から全部ができなくてもいい。どんな遠くの目標も、最初の一歩から。

だから、「やってみる」から、はじめよう。

岩谷 圭介

【おすすめコメント】 気になったことをまずやってみて、必要な失敗をたくさんして。著者のフットワークの軽さが素敵です。／『やってみよう。』という「思い」と実現に向けての「行動力」が高校生の夢を応援する本。／若い著者の挑戦の過程から、ものづくりに取り組む姿勢のヒントがもらえる本です。／楽で効率のよいマニュアルを安易に求めがちな時代に、自分で考えてやってみて失敗することの大切さを思い出させてくれる本でした。／まずは「やってみること」そして「失敗することの大切さ」。風船で宇宙を撮影する取組みに、夢を持ち挑戦することや困難を乗り越えていくことなど、高校生に伝えたいメッセージがぎゅと詰まっています。／若い時の夢の持ち方、実現へのステップなどが具体的に分かる本。何かのきっかけになり得る本だと思った。／挑戦すること。あきらめないこと。実現する喜び。体感して、自分の夢に向かってほしい。／夢は願っていただけでは叶わない。一歩を踏み出す勇気もらえる本。／夢を語って、その夢に関することを1つ1つやってみれば、やがては実現していくよ。明確な目標でなくとも、ちょっとした興味からいろんな世界を広げてほしい。／失敗を重ねながら、自分なりの方法で宇宙に挑戦している著者。高校生のみなさんには、著者の「やってみて、ダメでもいい」という実感のこもった言葉を糧にしてほしい。／正直言って優柔不断な「ダメ男」くん。でもそんな彼が「宇宙開発」をやってみようののです。たくさん回り道をした彼の言葉は、聞きなれたものばかりだけれど心に響きます。

で〜れ〜BOOKS 2017



## 2位 16歳の語り部

雁部 那由多, 津田 穂乃果, 相澤 朱音, 佐藤 敏郎 / ポプラ社

東日本大震災の時、小学5年生だったある3人の高校生が、あの日を辛かった過去にせず、学びに変えるために立ち上がり、未来を見据える。／東日本大震災を多感な時期に経験した彼らがどんなことを考えてきたのか、同世代の彼らが語る言葉を受け止めたい。／鳥取でも大きな地震もあった今年、生徒たちにもぜひ読んでほしい。見守ることの大切さと難しさにも気付かされました。／被災者の気持ちの移り変わりが率直に語られていて、すっくと心に入ってくる感じでした。／高校生のうちに読んで、何かを感じてもらえたら。／同年代だからこそ、真に迫るものがあるはず。何事もなく(悩みなどはあるだろうけど)過ごしている子たちに読んでもらいたいなあと思います。／つらい記憶だからためらうかもしれませんが…でも忘れてはいけないし、そして同じ高校生が語っているからこそ、聞いてほしい。／自分たちと同世代の高校生が語る話は、何より同じ高校生の心に深く届くのではないのでしょうか。「あの日、あのとき。小学5年生だった」それを今、自分の言葉で発信している高校生の姿ごと受けとめてほしい。／あの時感じていたそれぞれの気持ち、語ってくれてありがとうと言いたくなります。／同年代の語り手が、あの時何を思ったか、あれからどう生きてきたか。自分に置き換えながら読んでほしい。読めば絶対に震災いじめなんて起こるはずがない。／震災のとき何を考えたのか、飾り気のない生の声が語られている。同年代の彼らの気持ちをしっかりと受け止めて欲しい。／あの時子どもが感じていたそれぞれの気持ち、語ってくれてありがとう。

で〜れ〜BOOKS 2017



## 3位 ちいさなちいさなベビー服

八束 澄子 / 新日本出版社

寄り添い、心を配るとはどういうことなのか教えてくれる本。地元の話なので読みやすい。／産まれてくる命と亡くなった命。その2つがあることを忘れないでほしい。医療系に進む生徒以外にも読んでほしい！！／小さな命とその家族に対して、こんな風に温かく寄り添う活動があることに感動した。これから看護の道へ進もうとしている高校生たちに、ぜひ知ってほしいと思う。／自分が無事に生まれて生きているのはすごいことなのだ、と改めて感じました。／赤ちゃんが産まれてくる、って実は大変なこと。今ここにいることは、奇跡のようなものなんだから、ちいさなベビー服から感じてほしい。／死の隣に生があること、悲しみがあるからこそ、今生きている命のかけがえのなさがあることが、じんわりと伝わってきます。手芸ボランティアで悲しみに寄り添うという活動を高校生に伝えたい。／自分の身近な病院で、このような小さな命をめぐるドラマがあったことに驚きと誇りを感じました。／亡くなった赤ちゃんの服を作るボランティア岡山のことなのに知らなかった。出産経験のない私は、このボランティアの必要性にも気づかなかった。知らないことに目を向ける大切さ、高校生の皆さんにも感じてほしい。／誰かを「思いやる」ことの素晴らしさ、「心に寄り添う」ことの難しさを知った。／地元の病院の話だからこそ、ぜひ色々な人に読んでほしい。

で〜れ〜BOOKS 2017